大きな瞳（eye）と　大きな愛（アイ）でお出迎え

明スポ

めいじろう

あざとかわいい明大の賢者

受験生へのメッセージを披露するめいじろう＜撮影：楠川龍也＞

キャンパスに行くとあのかわいらしい姿を見ない日はない。実物だとしても、イラストだとしても、いつも明大生のそばにいるのは、そう。めいじろうだ。明大のあらゆる場所に登場し、明大生を応援している。時には〝あざとかわいい〟一面も垣間見えるこのキャラクターは、明大にはなくてはならない存在だ。そこで今回めいじろうとその友人である広報課職員へのインタビューを決行。広報課の方が思う明大の魅力や、めいじろうについてお聞きした。

小さな自分と一緒にパシャリ

ひょっこりかわいいあざとポーズ

明大生のことが大好きなめいじろう。現役生にとどまらず、未来の明大生にもその愛を注いでくれました。

受験生のみんなを応援しているよ！

しっかり食べてよく寝て、体に気を付けて頑張ってね！

めいじろうから

頑張る受験生へのメッセージ

明大スポーツ
8月16日　月曜日
令和3年（2021年）
第512号
明大スポーツ新聞
創刊　1953年
編集人　田中　佑太
東京都千代田区神田駿河台1の1
〒101-8301　TEL/FAX 03(3233)3760
http://meisupo.net/

㊍うどん丸香

明大の魅力は

〝明治大学〟と聞くとどんなイメージを思い浮かべるだろうか。人それぞれ、さまざまな印象を持っているだろう。実際、キャンパスを歩いていても、たくさんの個性豊かな学生を目にする。「学生は47都道府県、約60の国と地域から集まっている」。そのため、食堂に座っているだけでも、多くの言語や方言が飛び交っている。今や明大では全学部で国際化が進んでいる。特に中野キャンパスを拠点とする国際日本学部では、外国人留学生と接する機会も多い。コロナ禍でなければ「教室の約3割が留学生」となるほどだ。

そして、明大の最大の特徴は「逆境でも〝前へ〟進もうとする学生が多いこと」。大学としても奨学金やイベントを通して、そういった学生を手厚く支援している。学生の〝個〟を強くし〝前へ〟踏みだす一歩を与えてくれる。明大の魅力はここにある。

多様性育まれるキャンパス　学生に世界への翼を

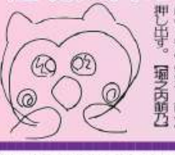
めいじろう？

前を向いて頑張る明大生をとにかく応援しているのが、めいじろう。大学行事や学生が手掛けるイベントだけでなく、六大学野球の応援などにも登場する大学公式のマスコットキャラクターだ。逆境に負けず、己の道を切り開こうとする受験生や明大生をいつも全力で応援している。そのため、学内での人気はとても高い。「マスコットキャラクターは学生に慕われる存在であってほしい」。だからこそ、めいじろうは大きなイベントでなくとも、学生が要請すれば、できる限り駆け付けてくれる。また、そのキュートなルックスも人気の理由の一つだ。「ちょっとあざとくてかわいいイメージ」。2017年度に出場した「ゆるキャラグランプリ」では、681ものキャラクターの中で31位と好成績を残している（都内のキャラクターでは1位）。この際、現役の学生だけでなく全国のOB・OGからの投票もあったという。「卒業生とのつながりを感じる出来事だった」。めいじろうは、大学と卒業生をも結び付けてしまう存在なのである。

「逆境に負けないで」　応援続ける紫紺のアイドル

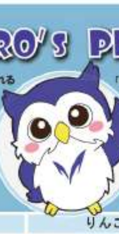
使命のために

これだけにとどまらず、めいじろうは大学からの情報発信にも一役買っている。「大学が広く発信したい情報も、優しく緩く伝えてくれていつも助かっている」。例えば「構内での感染対策をアナウンスする動画を作った時も、めいじろうが自ら学生に伝えたいと立候補して出演してくれた」と多方面で大活躍だ。また、対面のオープンキャンパスで会場を盛り上げ、入場待ちをしている人たちを和ませる役割も。「ちょっと緊張している人も表情が柔らかくなるのが分かる」。残念ながら、今年度は新型コロナウイルスの影響でそんなめいじろうの活躍を直接見ることはかなわない。それでも、今まで明大生のそばで培ってきたその親しみやすさが失われるわけではない。「めいじろうをきっかけに、明大をもっと好きになってもらいたい」。学内外を問わず多くの人を結び付ける。そんな使命のために、めいじろうは今日もみんなを〝前へ〟押し出す。【堀之内萌乃】



めいじろうのサイン

MEIJIRO's PROFILE



「森の賢者」と呼ばれるふくろうがモチーフ。明大のシンボルカラーである紫紺色の羽や、遠くまで見据える大きな目が特徴だ。

「めいじろう」の名前の由来は「めいじ」+「ふくろう」。「ゆるキャラグランプリ」に出場するなど活躍は多岐にわたっている。

身長	りんご15個分
体重	りんご3個分以上…かな？
年齢	ひ・み・つ♡
住んでいる場所	キャンパスのどこかにいるよ！
好きなこと	みんなと写真を撮ること
好きな食べ物	学食のトリプルカレー
好きなおにぎりの具	ツナマヨ
好きな果物	すいか
得意なスポーツ	何でも得意だよ！ でも水泳は苦手…
苦手なこと	狭いドアを通り抜ける

明大スポーツとは？

私たち明大スポーツ新聞部（通称明スポ）は46部から成る明大の体育会運動部を取材し、ウェブサイトや月に1回程度発行する新聞を通して、多くの方に学生の活躍を発信しています。明スポも体育会に所属しており、部員は総勢84人と大きな学生団体です。自分たちの力だけで記事を書き、写真を撮ったり、紙面のレイアウトを考えたりと一から新聞を作り上げることは大変ですがとてもやりがいがあります！

サッカー日本代表の長友選手（平21政経卒）や卓球の水谷選手（平25政経卒）など日本を代表するスポーツ選手を輩出している明大。未来のスター選手に取材できるかもしれません。またアスリートだけでなく明大出身の芸能人に取材を行うこともあります。

スポーツが好きな方、写真を撮ることに興味がある方、新聞の制作に携わってみたい方、学生生活で何か夢中になれることを見つけたい方、部員一同明大スポーツ新聞部でお待ちしております！【須藤聖広】

めいじろう独占インタビューの拡大版はコチラ！▼

▲紙面に載りきらなかっためいじろうの秘蔵写真はコチラ！

M記者ハリキアナ

かわいい足音が聞こえ、取材陣一同ドアを見る。そこには、ドアからちょっぴり顔をのぞかせるめいじろう。「かわいい！」。思わず私たちは声を上げてしまった。さらに、写真撮影のためリバティタワーの1階へ行った際には、学生や教職員の視線が一気にこちらへ。「一緒に写真いいですか？」。男子学生グループに囲まれると、快くそれに応じていた。その姿はまさに大学のアイドル。見る者全てをとりこにする、魅力あふれるめいじろうであった。【堀之内萌乃】

ホイッスル

「進め」。「この先右折」。「一方通行」。歩いているといつも目にする道路標識。原色でシンプルなデザインのそれは、よく見るといろいろな形があって面白い。それなのに書かれている言葉には有無をいわせぬ強さも感じる。その中でもひときわ強そうな「止まれ」の標識が目に入った◆どこに行くにしても「止まれ」が多い日々だ。緊急事態宣言が明けてようやく動きだしたら再び「止まれ」。何度急ブレーキを強いられたことか。自由なはずの大学生活。走りだしてみれば、立てられた標識の多さにうんざりした◆思い描いた道を進めない日々だが、通る予定のなかった道で思わぬ経験もできた。高校時代から話をつけていたバイトが休業により不可能に。仕方なく他の職を探し、飲食店で働くことになった。初めてのバイトはあまりの忙しさに面食らい、初日で「辞めたい」と思うほどだった。忙しさに慣れてからも覚えることは多く、何度も失敗する日々に「この仕事向いていないのかな」。やりがいも感じられず、辞めてしまおうか悩んでいた◆ある日、年配女性のお客様のレジ打ちをしていた時だった。「前もお姉さんがレジだったね」。思わぬ言葉を掛けられて驚いた。「にこにこ話してくれて素敵だったから覚えていたのよ」。自信を失っていた私には、思いがけない一言がたまらなくうれしかった。コロナ禍でやむを得ず選んだバイト先。その仕事にやりがいと楽しさが芽生えた瞬間だった◆ただ「止まれ」に従うだけではつまらない。たとえ回り道しようと脇道にそれようと、進むことで得られるものは確実にある。次はどのような道でどのような出会いが待っているだろうか。コロナ禍で制限される中でも、たどり着いた道で思い切りアクセルを踏み込んでやる【西村美夕】

年間購読のお申し込みは03ー3233ー3760　読み終えた新聞はお持ち帰りください

レイアウト　金井遥香・菊地秋斗

明治大学校歌
児玉花外 作詞
山田耕筰 作曲
霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

希望をカタチに
明治大学連合父母会　会長　吉野 由紀